

河北潟の湖岸再生をめざして

- 絶滅が危惧される水生植物の保全と新しい水辺空間の提案 -



河北潟干拓地
水辺ビオトープ実験池

干拓地の一角に多様性のある水辺空間を創出 かつての河北潟の水辺を再現

清浄な水をたたえ、生き物の豊かな湖であった河北潟は、現在では人工的な護岸が施され、水質は悪化し、水草や小動物が減少しています。私たちは潟を再生するためにはまず湖岸の再生が重要と考え、干拓地の一部に水生植物の豊かな水辺を再生しました。将来の湖岸の姿を重ね合わせてこの水辺ビオトープ実験池をご覧ください。

自生する種と系統を保全

このビオトープは、河北潟に残る水生植物の種と系統を保存することもめざしています。造成にあってはいくつかの植物を植栽しましたが、すべて河北潟周辺に自生する種と系統を用いました。また、本来の自生地への影響をできるだけ避けるため、前年度中に種子を採集するなど最低限の採集にとどめました。

自然の遷移を重視

希少種の最低限の移植はおこないましたが、その他は人為的な種の導入をおこなわず、自然の種の移入と定着の状況を観察しています。人為的に遷移を制御することは、管理費用を必要とするばかりでなく、生物間での相互作用を損ない、多様性のある生物群集の成立の妨げになってしまうこともあります。ただし、周辺の生物群集に負の効果を与えないよう配慮し、最低限の管理はおこなうこととしています。

手作りにより造成

池を造成する際には、土砂の掘り起こしのために大型機械を用いましたが、そのほかは基本的に手作業で造成しました。このことによりきめの細かい造成をおこなうことができ、また、土地の条件を活かした無理のない設計となっています。さらに、客土や極端な土地の改変をおこなわなかったことにより、造成後の植生の回復が早く、周辺からの小動物の移入、定着も速やかにおこなわれました。

ビオトープができるまで



造成中(98年4月)



植栽完了時(98年6月)



99年6月

河北潟周辺に自生する希少植物

ここで紹介する種は河北潟にわずかに残っている絶滅が憂慮される水生植物です。水辺ビオトープに種子を播いたり、株を少数移植したところ順調に生育しています。

アサザ



湖沼やため池などに生育する浮葉性の植物。6月から9月頃まで、水上に少し伸びた花柄の先に黄色い花をつけます。かつては湖岸に群生していた、河北潟を代表する水草の一つでした。現在では、干拓地内の西部承水路沿いに点在するのと、潟周辺の水田地帯の排水路の1カ所に群生しているのが確認されているだけです。

コウホネ属の一種



コウホネ属には、コウホネ、ヒメコウホネ、オグラコウホネなどの種がありますが、分類学上の再検討が必要とされています。河北潟にみられるコウホネ属の一種も、花柱の特徴などに、既種に単純に当てはめることができない、独自の形質をもっています。このコウホネは潟周囲の水田地帯の排水路の1カ所で8個体の生育が確認されているだけです。

ミズアオイ



休耕田や水路に生育する一年草で、8月頃から10月頃まで青紫色の花をつけます。河北潟周辺では、98年中に3カ所の群生地を確認しましたが、うち1カ所は道路脇の側溝で清掃により、もう1カ所は除草のためいずれも夏までには消失しました。残りの1カ所は最大の群生地でしたが、公園整備のため秋には埋め立てられました。

ミクリ



150cm位に成長する多年生の抽水植物。ショウブやガマに似た葉をつけますが、断面が三角状になることで区別できます。成熟した果実は栗のいがのような形をしていて目立ちます。止水を好み、水路や河川のなかで浅く流れのない場所に生育します。河北潟では、98年に干拓地内の中央排水路の1カ所で群生が確認されました。

水辺ビオトープの生き物たち



オオヨシキリ 夏のヨシ原でオオヨシキリとともに鳴いています。ヨシの先端に器用に止まって盛んにさえずっています。静かにしていると水面近くを飛び回る虫を探しにくる姿を見ることができます。



アズマヒキガエル 池を造成して2年目にアズマヒキガエルが産卵しました。多数のオタマジャクシが変態しました。夕方になると水際の草陰に潜んで陸へ上がるタイミングを待っていました。



メダカ 移植した草に紛れて入り込んだのか、いつの間にかメダカが池の中を泳いでいました。2年目にはビオトープで孵化した稚魚も確認されました。



セスジイトトンボ ビオトープを造成してすぐにやってきました。小さいので目立ちませんが、水面近くを飛んでいます。抽水植物の繁茂するあたりにはヤゴが生息します。



アメンボ 水面をすいすいと移動する姿はスマートですが、結構貪食で、水面に落ちた芋虫を素早く捕まえます。ときどき餌をめぐって同種間での争いもみられます。



マダラミズメイガ 幼虫はアサザの葉を二つ張り合わせた巣に潜んでいます。この幼虫がアサザを食べることにより、水面に隙間ができ、水中の沈水植物が育つ光が届きます。



この施設の建設にあたりアムウエイネイチャーセンターより助成を受けました。

施設利用者へのご案内

このビオトープは河北潟の生物の系統を守っています。生き物を持ち込んだり植物を植えたりは絶対にしないでください。水際の植生を守るために、通路以外の立ち入りはご遠慮ください。

河北潟干拓地水辺ビオトープ実験池

管理者：河北潟湖沼研究所生物委員会

920-0051 金沢市二口町八58

TEL 076-261-6951 FAX 076-265-3435

施工協力：拓建工業株式会社

宮本建設